

## 世界農業遺産国際スタディ・プログラム 研修レポート

## 総論

私は昨年まで石川県とはある意味で反対の静岡県におり、大学進学を機に石川県に引っ越してきました。そのため、石川県のこと、特に能登のことはほとんど知らない状態でいました。能登という地域は伝統産業が盛んに残っている地域でありながら、昨年大きな地震と記録的大雨の被害を受け、現在は復興に向けて活動している場所です。そこで、せっかく石川県に来たのなら、そのような能登に行って現在の状況を把握したいという気持ちから、このプログラムに応募しました。

震災から1年半ほど経っていたので、能登地域はもうすでに道路や崩れた建物は元通りにされ、産業も震災以前のように活発に動いていると、私は勝手に考えていました。ですが、いざ現地に行ってみると、状況は全く違うということが分かりました。のと里山街道にはいまだにひびが残っていて、一車線通行のところもありましたし、解体が間に合わず崩れたまま放置されている家も散見されました。能登の産業に関しては、今回の震災被害に加え、かねてより深刻であった担い手不足や担い手の高齢化という構造的な問題を抱えていると分かりました。そのため、事業を再開した事業者も震災以前の活動水準は満たしていないのが実情でした。事態は、私の想像よりもはるかに複雑だということが分かりました。状況が思うように改善されない背景には、震災によって能登を離れてしまった人が多いことや、国や県からの援助が不足していること、能登が石川県の都市部から地理的に孤立しているということなどがありました。ですが、中には事業の中に新しい技術を取り入れたり、広報に SNS を多用したりと復興に向けて取り組んでいる事業者がいました。町を復興しようと他の地域から能登へ移住して、地域おこし協力隊として活動を続けている方もいました。そういった人たちを忘れてはいけなく、私たちは復興に向けて取り組む人を応援するような行動をとらなければいけないと考えます。

このように世界農業遺産をテーマに、能登の様々な場所を訪問して現地の方にお話を伺うことで、今の能登の現状を知り、なおかつ様々な課題について考える機会を得ることができたというのは、価値があることだと考えます。大学近辺で住んでいるだけだと分からないこともありました。やはり、どんなことでも気になったことは直接足を運んで、自分の目で見てみることは大事なことであると考えます。

私は現在大学1年生であり、将来の具体像もはっきり決まっているわけではないので、今回のプログラムへの参加と同様に、興味のあるものができた際、積極的に追及していきたいです。また、このプログラムへの参加を通して多くの人と知り合い、一部の人は SNS も交換させていただきました。そのような人たちとの関係を大事にするためにも、今後も能登に足を運んでいきたいと思えます。

## 次期参加する学生へ

訪れる予定の事業者さんの事前学習は、これでもかというほどやっておいて損はないと思われまます。話をさせていただける時間は思ったより短いため、私自身焦って実のない質問をしてしま

ったことが何回もあり、移動車に戻った時「この質問しておけばよかったなー」と思うことがありました。このようなことがあるため、事前学習は必須だと思われます。また、行った先の事業者さんが何か物を販売していた場合、それを購入することを強くお勧めします。そこで売られている商品は、店頭でしか買えない場合があることと、商品を買うことは取材の感謝と一種の支援になると思われるため、見つけた際は購入するといいいと思います。多くの人がこのプログラムに参加し、学びを深められることを期待しています。